

第2回 学校運営協議会記録

1. 学校長挨拶

コロナによる大幅な変更。本来なら9月16日～就職試験だが、1か月遅れている。大阪の高校は、6月1日から分散登校。他県では8月になってようやく全生徒登校になった所もある。10月、進学の子の指導などが重複して行われている現状。

9月19日に体育大会実施。文化祭は「三密」が避けられないとの判断で見送り。限られた時間の中で「やっと行事ができる」という気持ちがあった。一堂に会したのはこれが初めて。グラウンドで3学年が集合。例年にも増して、生徒の頑張っている姿が見えたこと、また「全員」の姿が見えたことがうれしかった。

コロナの影響がじわじわと出てきている。行事等もできる限りやっていきたい。卒業式、第3・4派の影響は気になる。家にいても好きに出歩けない。ストレスから遅刻や欠席が増えている。経済状況の苦しさもある。

2. 今年度の目標(分掌等)

広報、1年、2年、3年、教務、進路、生徒会、生徒指導、総務、保健の各主任が現状と今年度の目標について説明。

3. 協議及びまとめ

協議員：先生の奮闘が見える。大切な時期をコロナで奪われた感。世の中的には大分収まってきて、ゆるくなってきている印象の中、学校ではどんな対策をとっているか？また、もともと、どんな対策をとっているか？

一年生。中学時不登校生徒など、影響大きい。日々の取り組みの中で、何とか学校に生徒を定着させてほしい。

生徒指導部の話から。家族からの連絡が増えていることについて、コロナの影響はあったのか？

オープンスクールについて、2年連続。特別に意識していることなどあれば、教えてほしい。

教員：独自の取り組みは特になし。府のマニュアルに従っている。消毒・密を避ける・チェックカード記入・マスク着用など。

ただ、マスクは一定数着用していない生徒もいる。すぐ密になる。「(気を)締めなおして。」と言うだけではなかなか定着しないと思う。ただ、他校と比べると、「少人数」なのが幸いしている部分もある。

教員：広報、毎年必死にやっている。特に今年だから特別な部分はない。ただ、「面倒見のいい学校」というイメージを何とか伝えたいという思いは強く持っている。保護者の方からすれば、「面倒見のいい」という言葉は「面倒みられるのか」とらえられ、必ずしもいい受け止めにならないこともある。学校の特徴を表して、多くの人を引き付けるよい合言葉はないのか悩みながらやっている。新設した10月のオープンスクールの手ごたえはあった。吹奏楽部の演奏がよかったこともあり、聴衆の様子は「よく話を聞いてくれた」という印象。

教員：10年前は、欠席・遅刻は当たり前。件数も倍以上あった。朝のSHRを導入して、担任が欠席を把握して家庭連絡を入れるようになった。こまめな連絡の積み重ねの結果、家庭からの連絡も増えた。遅刻・欠席していることを親に知られたくないことから、出席が増えているようにも思う。

協議員：家庭連絡は、嫌なこともある。そこを「積みかさねる」ことが本当に大切。

教員：教員は「当たり前」との認識で行っている。

協議員：コロナの対策、先生方は？

教員：授業では全員マスク着用。体調不良の時は無理して出勤しないなど、定着している。ただ、学校の場合教員定数が決まっているので新たに雇い入れはできない。

教頭：福祉施設での工夫などにはどんなことがあるか？

面談室にパーティションなどを設置している。消毒・手洗い・健康観察など。学校と同様。

評議員：高校の実態を聞いていると、小学校でも全く同じ。授業中座っておれず飛び出して、体調不良でなくても保健室にくる子ども、その子たちを教室に戻すのが校長の仕事になっている。朝の遅刻も欠席も増えている。運動会も午前中開催。保護者も制限。林間学校中止。ストレスもたまっている。

2年生、ビオトープに来て喜んでいて。久々の校外での学習。この子たちは1年生の時に高校生と交流している。「お兄さん・お姉さんはいないの？」と残念がる声も。昨年度優しくしてくれたことをよく覚えている。小・高の交流が子どもにとって大きいことと感じた。10月末に、1年生が三宅東公園への遠足を企画している。ここでは飲食できないため、平野高校のビオトープをお借りして昼食という計画になっている。楽しみにしている。今後も平野高校は続いてほしい。できることは是非、協力したい。

校長：松原市教育委員会にも協力いただいた。中学校長会にて7校に説明する機会を頂いた。また、公立学校説明会にて進路担当の先生向けにも説明の機会があった。ありがたい。

協議員：定員割れの件、深刻。「平野に来たらこんな生徒になれる」ということを伝える、「育った子を見せる」、「3年後を見せる」ことが一つの手法。

若い先生が、保護者に説明をすることについて、うまくいっているか。家の電話は、携帯電話と違い誰が出るかわからない。それを嫌がる若い人もいるが。

教員：うまくいってなかったら、フォローする。

協議員：大学入試が変わった。大学でも、観点別に評価を絞っていることもある。基礎学力も大事だが、3観点をある程度意識して指導していくことを「先取り」してみてもどうか。実態としては、中学校でもあまり進んでいない。大変ではあるが、思い切って高校で「今」やってみてもどうか？「基礎学力」という面だけで評価するのではなく。大変だと思うが、一つの方法としてどうだろう。

教頭：リモート授業について、大学の実態と、高校生にフィットするリモートの形はどんなものと思うか？

評議員：大学の方は全員登校していない。学籍番号の「奇数」と「偶数」交互に対面の授業を受けている。出席していない方は、「ライブ配信」か「別課題」。次週にそれをひっくり返す。

授業は録画され、you tube に上げている。同じ時間の違う授業を見ることができるようになったのが、新しい発見。興味関心に応じて勉強できる。ただ、準備が大変。説明するのは対面が楽。資料なども詳しくしないといけない。今後、何か使えることがあるのかも。大学も、揺さぶられている状況。

4.まとめ・閉会の辞 次回、1月27日(水)予定。